



令和8年度 7月号 令和8年6月30日

新治小学校だより

みつめる かかわる かんがえる



にいはるん

宿泊体験学習で育む、子どもたちの豊かな学びと心の成長

校長 古屋 澄人

夏至がすぎよいよ本格的な夏の到来を感じる季節となりました。これからの季節は、暑さ対策はもちろんのこと、急な気象の変化にも注目しなければなりません。本校の周辺は土砂災害警戒区域にも指定されているため、先日、風水害に備えて体育館へ一時避難する訓練を実施いたしました。気象庁の防災気象情報や警戒レベルの変更にともない、今後地震や火災を含めて、子どもたちの安全を最優先にした学校運営に努めてまいります。

さて、この6月、本校では大きな行事がありました。6年生の「日光修学旅行」、そして4・5年生の「三浦宿泊体験学習」です。どちらの学年も天候に恵まれ、予定していたすべてのプログラムを無事に実施することができました。

小学校の学習指導要領では、こうした集団宿泊的行事の意義について「平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむ」こと、そして「その環境でしか実施できない教育活動を豊富に取り入れる」ことと示されています。学校の教室を飛び出し、その場所でしかできないダイナミックな体験をすることこそが、子どもたちの諸感覚を刺激し、深い学びへとつながります。

今年度、4・5年生の宿泊学習では、本校が親しんできた新治の森や上郷での経験をいかしつつ、日常とは異なる「海（三浦）」へと舞台を移し、「森から海へ」の学習環境の転換を図りました。初日、4年生は昨年度と同様「はまぎん子ども宇宙科学館」でのプラネタリウムで月や星の学習とプログラミングを実施しました。5年生は三浦漁港で水産業の学習や観音崎自然博物館の見学と海の命を守る活動でもあるビーチコーミングを行い、まさに「三浦という環境でしか実施できない教育活動」を重視したプログラムに挑戦しました。

いつもと違う環境に身を置くことで、子どもたちの自然への探究心や地域の特色への理解は、より一層大きく膨らんだと感じています。

そして、もう一つの大切な意義が、「異なる環境下で協力し、折り合いを付けながら生活することで、よりよい人間関係を築く態度を養う」という点です。今回の宿泊体験学習では、まさにこの「人間関係の形成」において、子どもたちの大きな成長が見られました。

6年生は、日頃から「楽しむことの質をあげる」を意識して生活しています。世界遺産の日光東照宮では、ガイドさんの解説を一言も聞き逃すまいという真剣な態度を見せ、日光江戸村のグループ活動では、誰一人班から外れることなく、仲間を気遣いながらお互いに気持ちよく過ごしていました。知識を広げる楽しさと、仲間と響き合う楽しさを同時に実感してくれたようです。

4・5年生も負けていません。4・5年生で取り組んだサバイバル体験では、全員が麻ひもに火をつけるまで仲間を見守り、温かい声をかけ続けました。初めてのキャンプファイヤーでは実行委員のリードのもと全員で盛り上がりました。カヤック体験では重たいカヤックやオールの準備・片付けを自ら手伝う姿が随所に見られました。

日常生活の中で、お互いが気持ちよく生活するには、時にはどこかで「我慢する」ことや、「折り合いを付ける」ことが必要になります。子どもたちはこの宿泊学習という大きな体験を通して、身をもってその大切さを学びました。本校の特色である「小規模校」の利点を生かし、これからも子どもたち一人ひとりが友達との関係性を大切にしながら、心豊かに生活していける子どもたちを育てていきます。